

「感染防止の徹底」と「学校生活の充実」双方の実現を目指して!

校長 加藤 隆史

夏休みが終わり、本日より2学期が始まりました。去年は、短く慌ただしい夏休みでしたが、今年は例年通りの期間となりました。コロナ禍による制限はありましたが、子どもたちはのんびりと過ごしたり、自分がやりたいことにトライできたりした夏休みであつたら幸いです。

2学期の始業式には、子どもたちに以下のような話をさせていただきました。長文となりますが、ご一読くださり、ご家庭や地域の皆様も共有にいただければ幸いです。

この夏休みにあつたできごとについて数字をだします。なんの数字か考えてみましょう。

「58」→これは今回の東京オリンピックで日本が獲得したメダルの数です。

「583」→これはメダルを目指して東京オリンピックに参加した選手の数です。

これまでで一番多い58個というメダルを獲得したことは、素晴らしいことです。しかし、その何倍もメダルを獲得できなかった人たちがいること。その人たちは、きっと私たちの想像を超えるほどの努力をしてきたことを忘れてたくありません。その努力はメダリストたちと同じくらい素晴らしいものだと思います。

学校でも、みんなの前で褒められる人は本当に立派です。それと同じくらいに、目立たないところで、頑張っている仲間も必ずいます。そんな目立たない仲間のがんばりに気づき、声をかけてあげられる人で自分もいたし、みなさんもそんな目立たない素晴らしさに気づける人であつてほしいです。

では、これから始まる2学期の話をします。みなさんも知っているように岐阜県に緊急事態宣言がだされました。これまで以上にみんなで感染防止の取組をしていくことが必要になってきます。一方で2学期は一番長い学期で、勉強もたくさんできます。これまで以上にタブレットもどんどん使っていきたいです。修学旅行や根ノ上研修、社会科・生活科見学や運動会などの楽しみな行事も予定されています。

そんな2学期、私はある野球選手を見習っていきたいと思っています。その選手は現在、アメリカのメジャーリーグで活躍している大谷翔平選手です。大谷選手はピッチャーとバッターのどちらかを選ぶのではなく、どちらも挑戦し続ける「二刀流」を実現しています。

二つの中でどちらかを選ぶなければならないときもあります。しかし、二つを続ける方法が考えられることもあります。大谷選手は、二つを続ける方法を見だし、そのための努力をして、今、大活躍をしています。

土岐小学校の2学期のスタートは、「コロナウイルスの感染予防を頑張ること」「勉強や行事を仲間とともに頑張ること」の二つの「二刀流」を実現させたいと思います。そのためには、いろんなことを工夫したり、努力をしたりすることが必要です。そして、何より仲間との協力や励ましが必要となります。

たいへんな2学期のスタートとなったことは事実です。でも、まず、みんなでここを乗り越えて、みなさんも、そして先生たちも「やりきった!」といえる2学期にできたらいいと今、強く願っています。

保護者の皆様におかれましては、もう暫く学校行事等の参観の見合わせ、家庭での健康チェックや検温とご心配やご苦勞をおかけすることになります。学校としましては、感染防止対策を徹底しつつ、教育活動を継続して子どもたちが「ともに生きる」術を探ることができるよう努めていきます。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。